

上の寺遺跡第 2 次発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 2008.9.6

調査要項

遺 跡 名	上の寺遺跡（かみのてらいせき）
所 在 地	山形県寒河江市大字慈恩寺字上の寺
遺 跡 番 号	平成 16 年度新規登録
調査委託者	村山総合支庁産業経済部（西村山農村整備課）
調 査 原 因	農免農道整備事業（寒河江中央地区）
現 地 調 査	平成20年4月21日～平成20年10月24日（当初）
調 査 面 積	8,290 平方メートル
遺 跡 種 別	寺院跡・集落跡
時 代	縄文時代～近世
遺 構	溝・堀・井戸・墓坑・土坑・柱穴等
遺 物	中近世陶磁器・石製品・金属製品・土師器・須恵器・縄文土器・石器
調査担当者	調 査 課 長 長橋 至 課 長 補 佐 伊藤邦弘 調 査 研 究 員 高桑 登（調査主任） 調 査 員 渡辺和行 調 査 員 渡部裕司
調 査 指 導	山形県教育庁文化遺産課
調 査 協 力	山形県教育庁村山教育事務所・寒河江市教育委員会・寒河江市農林課・慈恩寺観光振興会



遺跡位置図（1/25,000）



B1 区：大型柱穴列（東から）

1 調査の概要

上の寺遺跡は、国指定重要文化財の薬師三尊や十二神将で有名な寒河江市の慈恩寺近くに位置しています。古くは薬師三尊・十二神将を納めた薬師寺があったとされています。薬師寺は後に聞持院と称しましたが、江戸時代初めには廃れ、薬師三尊は現在の慈恩寺本堂脇に移されました。遺跡周辺に残る地形や伝承に、その名残をとどめています。

慈恩寺は神亀元年（724）、行基の開山と伝えられます。平安時代には摂関家藤原氏や平泉藤原氏、鎌倉・室町時代には寒河江荘地頭の大江氏、戦国時代から江戸時代の初めには最上氏の保護を受け繁栄しました。その間、永仁 4 年（1296）、永正 5 年（1504）の火事で建物が焼失することもありました。

遺跡は慈恩寺のある山の東側山腹に位置し、斜面を造成した平場が連続しており、現在はサクランボなどの果樹園として利用されています。遺跡を縦断するように、慈恩寺から箕輪集落へ続く「箕輪道」と呼ばれる幅 1～2 m ほどの道路が通っています。新しい農道は、その箕輪道にほぼ沿った形で建設される予定となっておりますが、農道の整備に先立って発掘調査を実施しました。

2 見つかった遺構と遺物

B1 区 聞持院、薬師寺があったとされる場所から一段下がった平場です。北側と西側は、人為的に削られた土手に囲まれています。この土手に沿って幅 2 m、深さ 1 m ほどの大溝が見つかりました。大溝からは 13～16 世紀の陶磁器や石塔、焼けた土、釘などが出土しています。調査区の

中心部には約 18 × 16 m の長方形に並ぶ柱穴の列が見つかり、また、柱穴からは江戸時代の磁器が出土しました。どのような構造の建物であったかは、今後検討していきます。

M 区 慈恩寺本堂に近い調査区です。寺司坊^{てらづぼう}という坊があったところで、丈六仏（立つと一丈六尺・4.85 m になる仏像）の釈迦如来像を納めた丈六堂があったという伝承があります。石敷遺構や、石組の井戸、火葬骨を含む土坑など、寺院の存在をうかがわせる遺構が見つっています。

石敷遺構は、長さ約 6 m、幅 1 m の範囲に小石が敷き詰められていました。一部に飛び石のように大きな石が配置されていることから道路の跡と考えられます。遺物は出土していませんが、北側が削られて石が失われていることから、この場所が現在のように平らに整地される以前の遺構と考えられます。

石組井戸は、直径約 5 m の掘り方中央に直径 1 m の円形に石が積まれていました。出土遺物から推測すると、江戸時代初めごろに作られ、江戸時代のうちに埋められたと考えられます。
E 区 両側に側溝が掘られた「箕輪道」が見つかりました。片側の側溝は何度も掘りなおされており、整備を繰り返しながら長い間使われた道であることがわかりました。道路以外は近代以降の耕作痕が多く、中世の遺物は出土していません。

F 区 E 区と同様に中世の遺構や遺物はほとんど見つかりません。E 区と D 区の間大きな段差と昨年度見つかった溝までが寺院の範囲であった可能性があります。F 区からは、今回の調査区で最も多くの縄文時代の遺物が出土しています。

3 まとめ

今回の発掘調査の結果、上の寺遺跡の多くの地点に中世から近世の寺院に関する遺構や遺物が分布していることが確認できました。現在の慈恩寺本堂周辺だけでなく、山腹一帯に広がる慈恩寺の姿が明らかになってきました。

豊富に残された仏像や文献資料、舞楽などの民俗資料に加え、今回の発掘調査により、より豊かで深みのある慈恩寺や地域の歴史を描くことができる貴重な資料を得ることができました。



B1 区：大溝底面の様子（南東から）



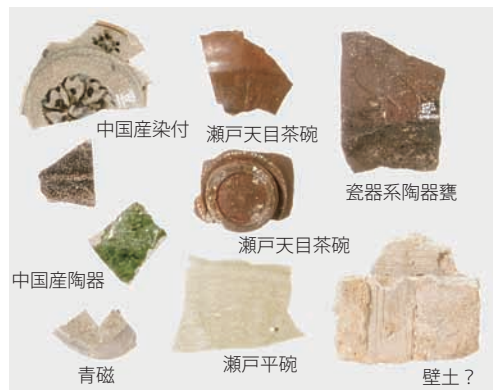
B1 区：大溝最上層出土の染付（16 世紀）



B1 区：斜面から石塔が出土した様子（北から）



F 区：石器・縄文土器



B1 区：大溝から出土した遺物



B1 区（1/500）



M区：石組井戸（北東から）



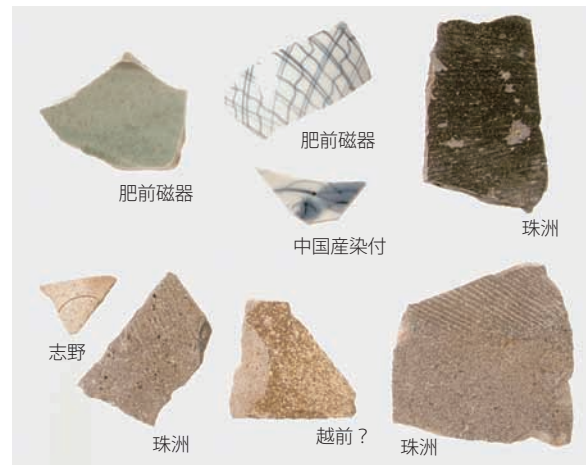
M区：火葬骨・炭が出土した土坑



M区：石敷遺構（道路？）（北東から）



M区：遺構検出状況（北西から）



M区：石組井戸から出土した遺物
（上段：石組内出土・下段：掘り方出土）



M区：瓷器系陶器甕
菊花のスタンプが見えます。

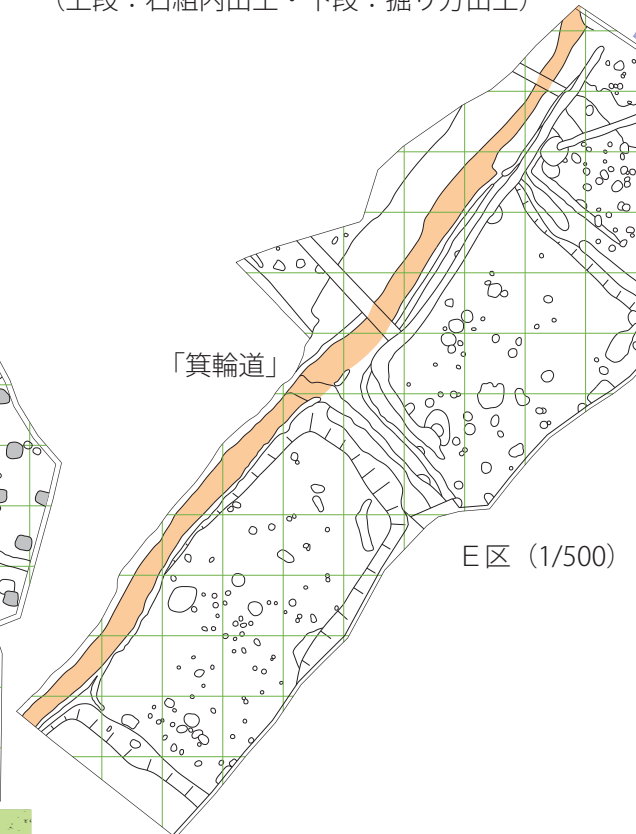
F区（1/500）



E区：遺構検出状況
（南西から）



M区（1/500）



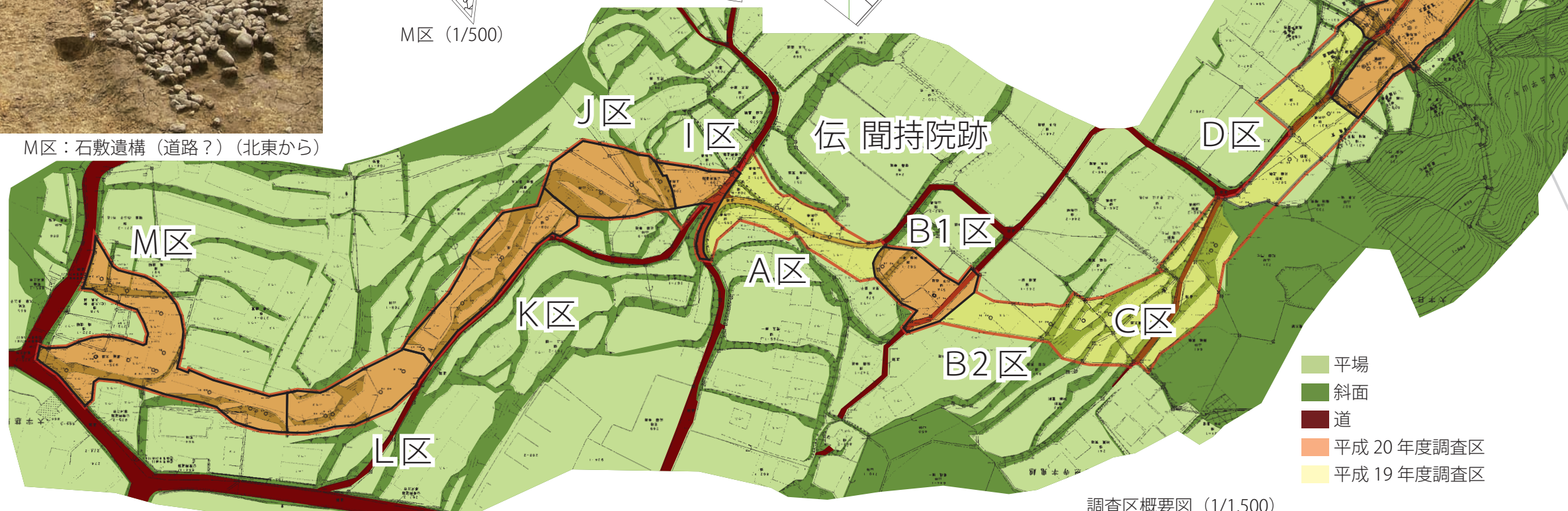
E区（1/500）



H区：調査前状況（北東から）



F区：完掘状況（南西から）



調査区概要図（1/1,500）

- 平場
- 斜面
- 道
- 平成 20 年度調査区
- 平成 19 年度調査区